

# 県内ナラ枯れ 6万本超

## 合成フェロモン 利用の新防除法 検討会で成果を報告

県内のほぼ全域に広がるナラ枯れ被害の拡大防止に向け、五日、寒河江市の県村山総合会（座長・高橋教夫山形大教授）を開いた。県森林研究研修センターなどが開発した合成フェロモンを利用した新たな防除法の有効性が実証試験の結果として示されたほか、県内全域で民有林、国有林合わせて六万本を超える、この被害状況が報告された。



合成フェロモンによる防除法の成果などが報告された対策検討会

丸太にこれを付けて虫を誘引し、捕殺する。実証試験は〇八年度から三カ年で実施しており、県内十四カ所の試験地から得られた初年度のデータを基に同センターの齊藤正一森林環境部長が報告した。おとり木、おとり丸太には大量の誘引効果が確認され、面的な被害軽減技術として確立される可能性が非常に高いと説明。被害が軽度、中程度の場合はおとり木に、中程度から激しいケースではおとり丸太により誘引効果があることが示された。

新たな対策として注目される防除法は、ナラ枯れの原因となる菌を運ぶカシノナガキクイムシが仲間を呼び寄せる際に出す集合フェロモンを人工的に合成。おとりの立ち木や丸太にこれを付けて虫を誘引し、捕殺する。実証試験は〇八年度から三カ年で実施しており、県内十四カ所の試験地から得られた初年度のデータを基に同センターの齊藤正一森林環境部長が報告した。おとり木、おとり丸太には大量の誘引効果が確認され、面的な被害軽減技術として確立される可能性が非常に高いと説明。被害が軽度、中程度の場合はおとり木に、中程度から激しいケースではおとり丸太により誘引効果があることが示された。ことしの被害状況は、民有林では、山形市や上山市、米沢市、南陽市などで新たに確認され、二十七市町村で約二万七千七百本と、前年に比べて約九千六百本増えた。本年度から調査が始まった国有林では、約二万八千九百本に上った。

検討会には約三十人が出席。協議では、〇九年度の被害対策方針として、合成フェロモンを用いた大量捕殺技術の確立をはじめ、被害先端地での重点的な対策、被害が激しい地域での面的対策、新規発生市町村で被害が軽度段階での駆除対策をそれぞれ実施することなどを確認した。